

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 38 回 レベル 1 P R A 分科会 議事録

1. 日時 第 38 回 : 2013 年 2 月 14 日 10 : 00 ~ 18 : 00
2. 場所 原安進 第 3, 4 会議室
3. 出席者
(出席委員) 高田主査、小倉副主査、村田幹事、梶本委員、大塚委員、牟田委員、久持委員、廣川委員、桐本委員、岡野委員、黒岩委員、岩谷委員、小谷委員、前原委員、根岸 (山中委員代理)、小森委員、佐藤委員 (17 名出席)
(常時参加者) 友澤、佐竹 (2 名)
(傍聴者) 池田 (1 名)

(敬称略)

4. 配布資料
P4SC-38-1 第 37 回レベル 1PRA 分科会議事録 (案)
P4SC-38-2 レベル 1PRA 分科会のコメント対応
P4SC-38-3 リスク専門部会のコメント対応
P4SC-38-4 実施基準改定案
P4SC-38-5 実施基準改定案 (見え消し付き)

参考資料

- 参考—1 第 37 回レベル 1PRA 分科会議事メモ (案)
- 参考—2 当面のスケジュール案
- 参考—3 レベル 1 P R A 分科会 委員リスト

5. 議事内容

冒頭、主査より、出席者が定足数以上であることの確認があった。

(1) 第 37 回の議事録確認

資料 P4SC-38-1 により前回議事録を確認した。特にコメントはなかった。

(2) レベル 1PRA 分科会のコメント対応について

資料 P4SC-38-2 により分科会のコメント対応について確認し、コメント対応の進捗状況が△ (検討中) で表示されているものについて、それぞれのコメントの今後の対応について議論した。現時点で○ (対応案提示中) や● (完了) にはできないものもあるが、少なくとも部会報告までには全てのコメントについて対応を完了させることを確認した。

(3) リスク専門部会のコメント対応について

専門家判断やピアレビュー等の扱いについては PRA 品質確保分科会で検討中であるが、議論がまとまるまでにはもう少し時間が必要であり、3月の部会での本報告は難しいことから、4月に部会を開催してそこで再度検討することとなった。また、PRA 品質確保分科会の議論は、レベル 1PRA 標準の改定スケジュールとは切り離すこととなった。すなわち、レベル 1PRA 標準での専門家判断やピアレビュー等の記載は、現行通り附属書に書くものとし、PRA 品質確保標準は引用しないこととなった。資料 P4SC-38-3 については、その主旨で対応方針欄の記載を見直した。

また、リスク専門部会のコメント対応としては、全てのコメントに対して進捗状況が●（完了）となったことを確認した。

(4) 実施基準改定案修正案について

前回分科会でのコメントを受けて、まえがき、1～3章、6～8章及び10章について実施基準改定案が各執筆担当の委員により修正されており、P4SC-38-2、P4SC-38-5 を用いて、修正部分の説明、議論が行われた。特に、起因事象発生前において評価対象とする人的過誤について議論があった。前回分科会でのコメント対応としてはひととおりで確認されたが、今後部会報告までに読み合わせを行うことにより、実施基準改定案を书面投票に向けた最終的なものとする。

(5) 実施基準改定案の読み合わせについて

前回分科会に引き続き、実施基準改定案の最終確認のため、P4SC-38-4 を用いて順次読み合わせを行った。4章から6章の執筆担当の委員が本文及び附属書をひととおりで読み上げ、各委員が気づき事項をコメントする形式で進められた。時間の関係で、6.4節以降は次回となった。特に、起因事象の同定において国外のトラブル事象をどのように考慮するのかについて議論があった。今回の分科会で得られたコメントについてはそれぞれの担当委員により対応を行い、次回以降の分科会でフォローしていくことを確認した。

(6) 今後のスケジュールについて

次回第39回の分科会は2月26日午後で設定済みであり、今回と同様に、実施基準改定案の読み合わせと修正確認を行うことが確認された。また、4月のリスク専門部会までに実施基準改定案の読み合わせをひととおりで終わらせる必要があることから、新たに分科会の開催が3月12日午後を設定された。

その後の分科会開催のスケジュールとしては、部会投票を受ける位置づけで4月24日午後、標準委員会投票に向けての最終確認の位置づけで5月22日午後を設定されている。

以上